

- 日 時 平成22年12月16日(木)、17日(金)
- 場 所 北海道ニセコ町・喜茂別町
- 出席構成員 宮口侗廸(座長)・安藤周治・岩崎憲郎・本田節・本田敏秋 (敬称略)

## 12月16日 15:00～18:15 ニセコ町

### 【意見交換等】

- 情報共有・住民参加を原則とする「ニセコ町まちづくり基本条例」を制定。
- 日ごろからまちづくり町民講座を開催し、行政の現状と課題を町民に説明、議論。
- 過疎計画は、パブリックコメントを実施し、9月議会で議決。
- 過疎債(ソフト)については、国の補助対象事業等に該当しないが実施したい事業の財源とすることができるため有効である。
- リゾート雇用や移住者が増加しており、人口が微増している。
- 365日子供を預けることができる子育てに不安のない町を目指し、若い世代の移住・定着を促したい。
- 情報公開を徹底し、住民が行政の現状を把握することで、行政に対する意見や陳情は大幅に減少した。

### 【循環バスふれあいシャトル・デマンドバス】

- スクールバス・福祉バス・路線バスを統合した「ふれあいシャトル」を運行。
- 町民と観光客のニーズに対応するデマンド交通など新しい地域交通のあり方を探るため、調査事業及び実証実験を実施。(過疎地域等自立活性化推進交付金事業)



## 【堆肥センター】

- クリーン農業、地域循環型社会を実践するための中核施設。
- 家畜のふん、一般家庭・事業者から排出される生ごみ、下水道汚泥を堆肥化し、農家に販売。



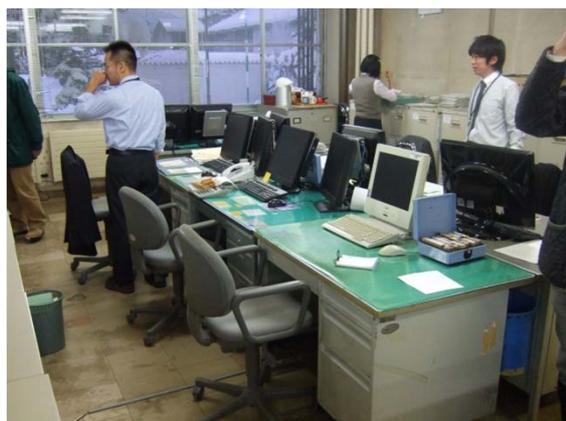
## 【ビュープラザ直売会】

- 直売所に参加する農家等が平成10年から「直売会」を組織し、現在は、農家等60戸とショップコーナー5戸が通年営業し農産物・特産物を販売。
- 平成21年度の農産物販売総売上額は3億2百万円(直売所利用者数22万3千人)で、年々増加している。



## 【ファイリングシステム】

- すべての文書が分類され、キャビネットに整理・保管。
- 文書を共有化することにより誰でも情報を活用できる。



### 【意見交換等】

- 地域おこし協力隊員10名を配置し、高齢者の生活支援や地域行事の支援活動などを実施。
- 集落支援員5名を配置し、集落支援員1名と協力隊員2名が1チームになって集落支援を実施。
- NPO法人きもべつWAO・北海道ふるさとづくりセンター・財団法人北海道農業企業化研究所によって構成されるコンソーシアムが協力隊支援活動の調整や協力隊員の起業に向けた研修等を実施。
- 協力隊員のスケジュール管理は、コンソーシアムに委託して配置しているタウンマネージャーと集落支援員が打合せをしながら行っている。
- 高齢者と協力隊員の交流が生まれ地域からも好評である。
- 町内7地区の連合町内会・連合会に課長級職員を担当職員として割り当てている。なお、「地域力」を育てていく観点から行政が手を出しすぎないようにしている。

### 【双方向の情報通信端末】

- 高齢者見守り対策のため、情報通信端末を導入。
- 行政・生活情報を配信するほか双方向性を生かした新たな活用方法を検討。



### 【中山峠写真の森美術館】

- 喜茂別町では地域おこし協力隊員10名を配置。
- 隊員の一人が絵画展を開催し住民との交流をとおして地域の活性化を図る。

